

寺とも落語会



3月4(日)午後2時～徳成寺にて、寺とも落語会が開かれました。当日は、最高気温が20度くらいまで上がり、春本番のポカポカ陽気でした。落語ファンの皆さんが、生の落語を見ようとお集まりくださいました。地元の方々の間にも、落語を楽しむ雰囲気は少しずつ定着して来たような気がします。座布団一枚・扇子と手ぬぐいで人々を異次元の世界に引き込む、まさに究極の話芸ですね。

トップバッターは、志度のボランティア朗読グループ「どんぐり」所属の「どんぐり亭おつぼね」さんです。おつぼねさんは、ちゃんと徳成寺のホームページもチェックして高座に臨んで下さいました。演目は、「たらちね」。大家さんの紹介で妻をもらった八五郎が、彼女の言葉づかいがあまりにも丁寧なために次から次へと騒動が起きるのを描いた一席でした。



お次は、どんぐり亭の代表「どんぐり亭笑笑(わらわら)」さんの「さぬきの方言」です。日常私たちが何気なく使っていて、他地域の方には難解なさぬき弁を取り上げて下さいました。「お腹がおきる」「お水がまける」「机をかく」は、他県の方には伝わりません。極めつけは「ベベ着てパッパして、ちょいちょいぼいぼいで、ぴっぴ食べる」などです。こうなると、何語なのかすら解読不可能です。

トリは、お馴染み「酔亭藪太郎」さんで、どんぐり亭一門の指南役でもあります。「鼠穴」という人情噺を披露して下さいました。身を持ち崩した弟が、兄から商売を始めてみると元手を貸してもらったけど、たったの三文。そこから一念発起して商売に成功し、兄に借りた三文と御礼を持って訪ね、心が打ち解けた時に起きたハプニングのお話でした。上手な落語は、目をつぶっていても様子が目に浮かびますね。

